

ツヤハダゴマダラカミキリとクビアカツヤカミキリの対応の比較

種名		ツヤハダゴマダラカミキリ	クビアカツヤカミキリ
成虫の判別		現物又はルーペ画像が必要	画像で可
被害の判別		成虫の確認又は痕跡の状況から強い疑いがある場合に判断	プラスで可
成虫発生時期	期間	5月～10月	5月～8月
	ネット巻による成虫拡散防止	主な寄生位置が樹木上部のため困難 ↑伐採し、その場で集積して、ネットやシートで脱出防止を図り、成虫の発生しない時期になってから運搬・処分を行うと良い。	主な寄生位置が2 m以下のため概ね可能 ↑成虫の発生しない時期までネットを巻いておき、成虫の発生しない時期になってから伐採・運搬・処分を行うと良い。
	伐採	可（推奨）被害発見からできるだけ早い伐採を推奨	可
	伐採した場合の処分方法	その場で集積してネットやシートで脱出防止を図っておき、成虫の発生しない時期になったら運搬して処分する。	
		可能であれば、運搬せずにその場で微細チップ化	可能であれば、運搬せずにその場でくん蒸又は微細チップ化
	伐採した木の運搬	成虫発生時期の運搬は推奨しない（成虫拡散リスクあり） 成虫発生時期にやむを得ず運搬する場合は梱包が必要。その後、梱包のまますぐに焼却する。やむなく一時保管する場合には梱包を解かずにさらにシート等で覆い、端はペグで止める又は盛土で埋設する等して成虫の脱出を防止する。	
成虫の発生しない時期	ネット巻による成虫拡散防止	不要	
	伐採	可（推奨）被害発見からできるだけ早い伐採を推奨	可（推奨）
	伐採した木の処分方法	微細チップ化、焼却	くん蒸、微細チップ化、焼却
		成虫の発生しない時期内に処分を完了する。	
伐採した木の運搬	トラックから被害木が落ちないようにシートで覆う。		